

第7章 公害苦情

令和5年度の公害苦情処理数は、15件であった。

公害に関する苦情のここ数年の傾向は、建物の建築や解体に伴う騒音、事業所における粉じんや焼却など、近隣住民への生活環境への影響に係るものが多い。

□ 公害苦情の種類別及び月別数

種別 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
大気汚染	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
水質汚濁	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
騒音	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
振動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
悪臭	0	2	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	3	1	0	1	2	1	1	0	0	0	15

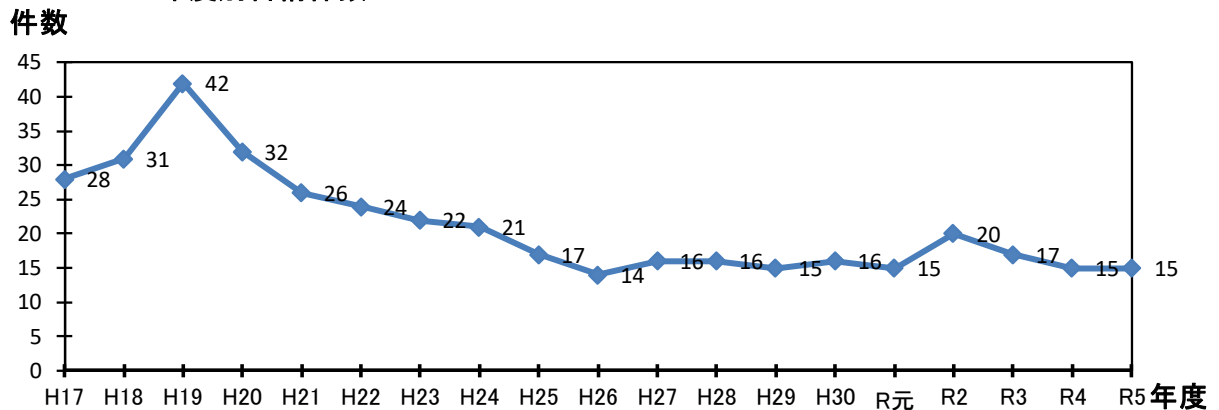
※表中の数は苦情対象となる事業所数

□ 公害苦情の用途地域別数

種別 \ 用途地域	住居地域	近隣商業 商業地域	準工業 地域	工業地域	工業専用 地	市街化 調整区域 ・その他	計
大気汚染	0	0	0	1	0	3	4
水質汚濁	0	0	0	1	0	1	2
騒音	0	0	1	2	0	1	4
振動	0	0	0	0	0	0	0
悪臭	1	0	1	3	0	0	5
その他	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	2	7	0	5	15

※表中の数は苦情対象となる事業所数

□ 年度別苦情件数



第8章 公害健康被害補償

第1節 大気汚染健康障害者医療救済制度

昭和43年5月、本市独自で大気汚染の影響による吉久、能町北部及び富岡町の健康障害者を救済するため、「高岡市大気汚染健康障害者医療審議会要綱」を定め、昭和46年3月には市公害防止条例の制定により認定患者の救済を規定した。また、昭和53年4月には、国の公害健康被害補償法に準じて、市条例に療養手当と葬祭料の支給を加えた。救済を始めて30名の認定を行ったが、平成4年1月に認定患者が亡くなり、現在、該当者はいない。

第9章 脱炭素化社会推進に関する支援

第1節 脱炭素施設等整備資金利子補給制度

本制度は、2050年カーボンニュートラルに向けて、市内に工場、事業所を有する中小・小規模事業者が、金融機関から脱炭素施設等への必要資金の融資を受けた場合、借入資金の利子補給を行い、公害防止対策及び環境への負荷の低減を促進している。金融機関については、富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資要綱に基づく取扱金融機関としている。令和5年度には、公害防止施設整備資金利子補給制度を改正し、脱炭素施設等への利子補給実施を可能とした。公害防止施設整備資金利子補給制度創設から現在までの制度利用件数は、362件となっており、総所要額約46億円の投資が行われてきている。

従来は工場・事業場の廃棄物焼却炉や排水処理施設の改善等に制度が利用されてきたが、今後は脱炭素施設への制度活用が期待される。

□ 脱炭素施設等の整備・利子補給状況

令和6年3月31日現在

年度	新規分				継続分子 利補給額	計	利子補給終了 件数
	件数	所要額	利子補給 対象額	利補給 額			
昭和42 ～ 平成29	362	千円 4,620,418	千円 2,630,120	円 22,763,397	円 162,100,281	円 184,863,678	362
平成30	0	0	0	0	0	0	0
令和元	0	0	0	0	0	0	0
令和2	0	0	0	0	0	0	0
令和3	0	0	0	0	0	0	0
令和4	0	0	0	0	0	0	0
令和5	0	0	0	0	0	0	0
計	362	4,620,418	2,630,120	22,763,397	162,100,281	184,863,678	362

第2節 住宅用太陽光発電システム高度利用促進補助金制度

家庭で取り組む地球温暖化防止対策の充実に向け、平成21年度より住宅への太陽光発電システムの設置支援を開始し、再生可能エネルギーの利用を促進している。

令和4年度からは、蓄電等を活用した再生可能エネルギーの高度利用を促進するため、市内の住宅への蓄電池付太陽光発電システムに加え、PPAに基づく太陽光発電システム（電力の使用者がPPA事業者に敷地、屋根スペースを提供し、PPA事業者は太陽光発電設備の無償設置、運用及び維持管理を行うシステム）設置への補助金交付を開始した。

令和5年度補助実績は32件であり、発電能力の計は202kW、蓄電容量の計は213kWhであった。補助開始以来のこれまでの累計は、補助件数1,657件、発電能力の計7,985kW、PPAに基づく太陽光発電システムの計3件、蓄電池付太陽光発電システムの計203件、蓄電容量の計1,281kWhとなった。

第10章 快適環境

第1節 富山新港地区緩衝緑地整備

富山新港地区緩衝緑地（県民公園新港の森）は、富山新港をとりまく臨海工業地帯からの公害を防止するため、その緩衝緑地として、工業地帯の西側に造成された南北1,700m、東西150mの25haの広さを持つグリーンベルトである。なお、この緩衝緑地は、県民公園新港の森として、多くの県民が利用できる芝生公園、修景広場や野球場等が整備されている。

□ 富山新港地区緩衝緑地（県民公園新港の森）の概要

	内 容
所在地	高岡市姫野・金屋、射水市二の丸・作道地内
面積	約25ha（高岡市約14ha、射水市約11ha）
工期	昭和51年～58年
総事業費	約92億円
施設の概要	芝生広場、修景広場、野球場等
建設事業費負担者	国、県、高岡市、射水市、企業

第2節 啓発事業

1 環境月間行事

環境保全対策の普及・啓発の一環として、環境月間である6月に各種行事を展開し、市民、事業者等の環境保全に対する意識の向上に努めている。

□ 環境月間行事の概要

行 事	内 容
学習用紙(再生紙)の贈呈	市内企業の協力による市内の小・中・義務教育・特別支援学校並びに幼稚園・保育園（こどもエコクラブ登録の33園）へ再生資源（年賀状、割り箸）を活用した学習用紙贈呈
啓発ポスターの掲示	公共施設に啓発ポスターを掲示
環境整備について事業所への啓発	ポスターの配布と共に環境整備についての啓発

2 環境啓発事業

快適な環境を形成していくため、市民及び工場・事業場を対象に啓発事業を実施しているほか、「環境教室」や「こどもエコクラブ」の活動に対する支援を行っている。

令和5年度は市内23の保育園・幼稚園においてグリーンカーテンの育成を行ったほか、環境教室を1小学校の児童育成クラブで実施した。

		
グリーンカーテン育成の様子	環境教室の様子	川のすこやかさ調査の様子

□ 令和5年度に実施した環境啓発事業の概要

啓 発 行 事	実 施 年 月	内 容
グリーンカーテン環境啓発事業	令和5年 4月～9月	こどもエコクラブに登録した市内の幼稚園・保育園（25園）に必要な資材を各園に提供し、自然環境に対する意識を醸成した。
地域環境教室 （小学校の児童育成クラブ）	令和5年8月	「ごみをへらすためにぼくたち・わたしたちができること」と題して、幼少期から少年期にかけて実施できる取り組みについて、環境教室を実施（1箇所）
川のすこやかさ調べ （小学校）	令和5年8月	市内の河川や用水の「水辺のすこやかさ」を五感（見る・聞く・においをかぐ・味わう・触る）で判断する調査を実施し、環境保全の大切さについて理解を深めた。（1校）
市内企業の社有林での自然 体験学習会 （小学校）	令和5年10月	小学生を対象に市内企業の社有林での間伐、枝打ちの見学、オリエンテーリング等の体験を通して、貴重な森林資源の保全や森林の働きについて学ぶ自然体験学習会を実施（2校）

□ こどもエコクラブ会員名簿 令和6年3月31日現在

35クラブ 1,043人

ク ラ ブ 名 など			人数	ク ラ ブ 名 など			人数
いしつすみエコクラブ	石堤保育園	14		おおたはまっこくらぶ	太田保育園	9	
第二エコキッズ	第二幼稚園	25		エコじょうず! かクラブ	定塚保育園	29	
スマイル 第三!!	第三幼稚園	41		ちくばECOキッズ	国吉ちくば保育園	33	
エコぱとクラブ	こぱと幼稚園	59		戸出西部保育園エコクラブ	戸出西部保育園	68	
和田保育園エコクラブ	和田保育園	25		だいいちエコクラブ	第一幼稚園	25	
高岡保育園エコクラブ	高岡保育園	24		伏木スマイル♡ エコクラブ	伏木保育園	12	
はんにゃのスマイル◎エコキッズ	般若野保育園	18		たてほクラブECOーズ!!	立野保育所	14	
しょうとくエコレンジャーズ	正徳保育園	22		国吉光徳エコレンジャー	国吉光徳保育園	16	
よっさエコクラブ	吉久ひなどり保育園	8		成美校下ひばり児童育成クラブ	高岡市立成美小学校	42	
中央なかよしグリーンクラブ	中央保育園	33		万葉なかよしグリーンキッズ	万葉なかよし保育園	26	
のむらエコクラブ	野村保育園	42		ふたばこども園エコクラブ	ふたばこども園	30	
エコレンジャー西部っ子	西部保育園	19		エコ戦隊 すみれんじゃー	すみれ保育園	17	
ふたつかグリーンキッズ	二塚保育園	22		高岡市立中田中学校 科学部	高岡市立中田中学校	19	
といでエコレンジャー	戸出保育園	41		はおかエコレンジャー	はおか保育園	13	
戸出東部保育園エコクラブ	戸出東部保育園	7		まきのエコ・グリーン	牧野みどり保育園	39	
さかのしたグリーンフレイバーズ	坂ノ下保育園	15		かたかごキッズ	かたかご幼稚園保育園	146	
認定こども園 いずみエコクラブ	いずみ幼稚園	47		かわらエコキッズ	川原保育園	14	
牧野かぐらっこエコクラブ	牧野かぐら保育園	29					

3 とやま環境フェア2023での情報発信や環境啓発

令和5年度は高岡テクノドームで「とやま環境フェア2023」がコロナ後初めて大規模に開催された。

(開催期間 令和5年10月14日～10月15日)

富山県、高岡市（主催）および民間企業が出展し、ブース展示やイベントを通じて、脱炭素社会・循環型社会づくりや自然との共生に関する取り組みの情報発信や環境啓発に努めた。

高岡市では、ブース出展とステージイベントを実施した。ブース出展では「カーボンニュートラルを学ぼう・実践しよう」と題して、暮らしに身近な環境クイズを実施し、カーボンニュートラルに取り組みながら、暮らしを豊かにする脱炭素アクションの普及・啓発に努めた。また、ステージイベントでは、県出身俳優の池田航さんを招いたトークショーやecoクイズを主催し、来場者が無理なく実践できる脱炭素行動を紹介し、市民の環境意識向上や行動変容を図った。これらの取組については、地元メディアで取り上げられるなど大きな反響があった。



4 御旅屋人マーケットでの脱炭素に係る情報発信やPR

令和5年6月16日、御旅屋アーケードメルヘン広場前にて「御旅屋人マーケット」が開催され、令和5年2月に協定を締結した日産自動車株式会社と共同で、電気自動車（EV）の展示、EVから電化製品への給電デモならびに脱炭素（カーボンニュートラル）に関するパネル展示を行った。

市民に電気自動車に実際に触れてもらい、便利な機能を知る機会とするとともに、来るべき脱炭素社会を周知することを目的に出展を行った。



高岡市では「脱炭素を学ぼう」と題して、脱炭素とは何かを説明し、市民に身近に取り組んでみたい脱炭素に関する行動のアンケートを取り、多くの方々にPRすることができた。

5 資源循環啓発事業

(1) 使用済み年賀状リサイクル

資源の循環や貴重な森林資源などの保全につなげることを目的に、市内企業の協力のもと使用済み年賀状を市役所、小・中・義務教育・特別支援学校、こどもエコクラブに登録している幼保園・保育園で回収し、再生紙にリサイクルしている。幼保園・保育園で実施している環境教室においても、この取り組みを身近なリサイクルとして感じてもらえるような工夫を凝らし、子どもたちの意識醸成を図っている。



リサイクルされた再生紙は、市内の小・中・義務教育・特別支援学校、こどもエコクラブに登録の幼保園・保育園へ贈呈され、子どもたちの学習に活用している。

（平成22年12月から開始。令和5年度回収実績 260kg）

(2) 割り箸リサイクル

今まで焼却処理してきた使用済み割り箸を各公民館などで回収し、市内企業が受け入れパルプ原料にリサイクルしている。

わりばしは分別して汚れを落とせば、割り箸3膳（6本）で、A4コピー用紙1枚に生まれ変わることから、大量に消費される割り箸をゴミとして捨てずにリサイクルする本取組みは森林資源の保護につながっている。



（伏木校下の婦人会による同地区での取組みを平成19年10月から全市に拡大し、令和5年度の回収実績は469.1kgとなっている。）

(3) フードドライブの実施

フードドライブは、家庭で余った食品を持ち寄ることを呼び掛け、社会福祉施設等へ寄附する活動である。本市では、平成30年10月のとやま環境フェア2018でエコライフを楽しむ市民の会高岡との共同の出展ブースで初めて実施し、令和6年3月末までに計16回実施している。

令和5年度は令和5年4月23日、7月24日・25日、7月29日、10月14日・15日と令和6年1月21日に小売事業者2社およびエコライフを楽しむ市民の会高岡と協力して、フードドライブを実施し、多くの食品が集まった。（令和5年度実績 1,858点）

また、スーパーマーケットでのフードドライブの実施に併せて、フードドライブに関する調査アンケートやちらし配布も行うことで、市民の方に食品ロス削減やフードドライブについての周知、啓発に努めた。



令和5年10月「とやま環境フェア2023」で実施 社会福祉協議会及び市社会福祉事務所に回収した食品の贈呈の様子

(4) その他の事業

本市では家庭や食品に関する幅広い事業活動において発生する食品ロス・食品廃棄物の削減に向け、「3010（さんまるいちまる）運動」を実施している。

3010（さんまるいちまる）運動は、宴会の時の食品ロスを減らすためのキャンペーンで、乾杯からの30分間とお開き前の10分間は自分の席で料理を楽しみ、食べ残しを減らそうと呼び掛けることから「3010運動」と名付けられた。

本市では、「チャレンジ 3010 さんまるいちまる」をキーワードに食べ残しを減らす宴会時の取組みに加え、毎食30分をかけて食事をする、毎日10分の運動を奨める日常生活での取組み、毎月30日は冷蔵庫の中身をゼロにする、毎月10日は冷蔵庫の中の残り物で料理することを毎月の目標とする取組みもあわせて3010運動として呼び掛けている。



「食品ロス削減チャレンジ3010運動」
普及啓発用の卓上三角柱POP